

(令和3年10月22日子ども未来まちづくり審議会答申書)

答申書

令和3年6月14日付け3子未第490号により諮問のありました今後の子育て支援拠点等のあり方について、本審議会では慎重かつ様々な観点から審議した結果、別紙のとおり答申します。

(別紙)

1 はじめに

「第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり実施されました、子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査では、「天候に関係なく遊ぶことができる屋内施設がほしい」、「交流の場の提供を」といった意見が多くありました。また、昨年度より実施をされています“はは笑みプロジェクト事業 子育てWeb懇談会”でも同様の意見があったと聞かせていただいているところです。

このようなことから、令和3年6月14日、京丹後市長より「今後の子育て支援拠点等のあり方について」の諮問を受け、子育て環境を更に充実させる観点から、子育て支援拠点の必要性等について審議を重ね、その内容を取りまとめましたので、ここに答申します。

2 審議の結果

(1) 子育て支援拠点の必要性

少子化や核家族化が進行する中であって、身近な地域での子育て支援機能のみならず、天候や曜日になるべく左右されることなく、様々な人と交流しながら遊ぶことができ、子育てに関する相談等も可能な子育て支援拠点のニーズ及び必要性は高く、あらゆる市域から利用しやすい市の中心地に整備されることが望まれます。

(2) 子育て支援拠点の機能

この施設に備えるべき機能については、幅広い年代の子どもや親子などが遊べるスペースを中心としながら、子育てに関する相談窓口やカフェを併設するなど、付加価値を加えることが望まれるとの意見がありました。

また、子育て世代等、利用者の利便性や整備効果を高めることを考慮した場合、図書館や商業施設など、他の機能との「複合型施設」とすることにも留意すべきと考えられます。

(3) その他

子育て支援拠点は、できれば早急な整備を望むものですが、整備には一定の年月を要するものであり、現在の子育て世帯への早急な支援も望まれることから、当面の対応として、市の中心部に、既存施設を活用した代替機能（子育て支援センターなど）が必要と考えられます。

一方で、身近な地域での子育てサロンや公民館等の役割も重要との意見も多くあり、現在進められている「新たな地域コミュニティ」の中に子育て支援機能を位置付けることも含め、地域で子どもを見守り、地域全体で子育てを支援していく必要性も改めて再認識したところです。

3 おわりに

京丹後市は、田園風景が広がりゆったりとした時間が流れる空間に、以前より減ってきてはいるものの祭りや地域行事など隣近所の人々とのつながりもあり、子どもを育てやすい環境が残っているといえます。

市では、子育て支援策として、保育所・こども園や放課後児童クラブにおける「待機児童ゼロ」の継続をはじめ、子育て世帯に寄り添った各種施策に取り組まれており、子育てサービスの向上や拡充についての期待が膨らみます。

今後、今回の答申が実行され、子育て支援が更に充実し「子育て環境日本一のまち」を実感していただけるまちとなることを期待しています。